



親切、速やか、最善の病院に



県立山田病院の医師として着任した
平 泉 宣せんさん(飯岡・46歳)

「山と海、そして空気がとても素晴らしい町です」と山田の印象について語る平泉宣さん。七月一日に県立山田病院の副院長兼外科長として着任しました。平泉さんは、平成二年に東北大学大学院医学研究科を卒業後、米国ハーバード大学へ留学。医学部研究員として三年間、がんの研究に取り組みました。その後、出身地の秋田県

をはじめ宮城県、本県の県立中央病院での勤務を経て山田病院に着任しました。平成十三年には「小範囲胃切除術」の原著論文で、岩手県病医学会から中村記念賞を受賞しています。以前は山歩きが趣味でしたが、現在は芸術を楽しむことが趣味と平泉さん。でも一番の趣味は患者さんを一日も早く元気にさせることと笑顔で話します。平泉さんが医師を志したのは子供のころ体が弱く、病気で医者にもいつもお世話になっていたことがきっかけ。「医者は患者さんを励ましていくようですが、実は逆に患者さんから励まされてもいます。医師をはじめ看護師など病院に勤務する人は、患者さんが元気になるまで治っていくのが一番うれしい」と医師としてのやりがいを語ります。

県立中央病院内での携帯電話使用に携わった経験から、早速、山田病院内でも使用を解禁するなど、病院の環境改善にも努める平泉さん。今後の抱負については「親切、速やか、最善の三つの『S』をモットーに頑張っていきたい」と優しいさいっぱい笑みがこぼれます。

町婦人防火クラブ連合会

平成16年度 安全功労者 消防庁長官表彰を受賞



表彰状と盾を手にする瀬川チセ会長(右)と五十嵐まき子監事

山田町婦人防火クラブ連合会(瀬川チセ会長)が、平成十六年度安全功労者消防庁長官表彰を受賞しました。同連合会は、昭和三十九年に田の浜地区、昭和五十六年に大浦地区でそれぞれ結成された婦人消防協力隊により、活動の一

層の充実を図るため昭和六十三年に設立されました。その後、荒川、大沢、織笠地区で結成された婦人防火クラブも連合会に加入。総合防災訓練や消防演習などで各種訓練を実施し、消防技術の向上に努めるほか、火災予防パレードなどを通じて防火思想の普及啓発に積極的に取り組んでいます。瀬川会長は「今後も会員の皆さんと協力して火災予防に努めたい」と意欲を見せていました。

火の取り扱い

注意してね

8月は、お盆を中心に迎え火や花火など火を取り扱う機会が多くなります。火の不始末による火災の発生も心配されますので、各家庭では▶仏壇のろうそくの周りには燃えやすい物を置かない▶外出するときは線香やろうそくの火を完全に消す▶迎え火や花火をするときはバケツなどに水を用意し、終わったら完全に消す▶風の強い日には花火をしない▶寝る前には火の元の点検を行う——などの点に注意し、火の用心を心掛けましょう。